

東三河スタートアップ・サテライト支援拠点検討プロジェクトチーム 第1回会議 議事録

日 時：2020年5月19日（火）午後2時30分から午後4時まで

開催方法：Web会議

1 開会

2 挨拶（リーダー：神野東三河広域経済連合会会長）

- チーム員の皆様には、お忙しい中、プロジェクトチーム会議にご出席いただき、感謝申し上げます。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、今回はウェブ会議という形をとらせていただいた。不慣れな点もあろうかと思うが、活発な内容にしたいと思うので、ご協力をお願いします。
- 愛知県では、スタートアップの中核的な支援拠点「ステーションA i」の整備を進めるとともに、県内各地域におけるステーションA iの「サテライト支援拠点」の設置に向け、スタートアップの機運を高め、実務的にも検討を進めていこうとしている。
- この東三河地域では、既にスタートアップに関する産学の様々な活動があり、支援にも取り組んでいる。県内では先進的と言われているようだが、世界的に見れば必ずしも進んでいるとは言えない。既に取組の実態があり、県内で最初にプロジェクトチームを立ち上げ、サテライト支援拠点の設置に向けた検討をスタートすることとなった。
- このプロジェクトチームで、まず皆様の取組内容を理解し、これからさらに連携していく。多くの人を巻き込みながら、地域全体のスタートアップ・エコシステムの形成に繋げていきたいと考えている。今後、ワーキンググループなどでの検討を並行的に進めていくことになるので、コロナ禍の状況ではあるが、積極的にやっていたらと思う。

3 議題

- (1) ステーションA iプロジェクトの展開について（資料1）
- (2) 東三河地域におけるスタートアップ支援の取組について

<各機関の取組（資料2）>

中部ガス不動産株式会社（サーラグループ）赤間氏

- サーラグループとしてのベンチャーキャピタル支援では、直接的な資金を入れるのではなく、ファンドを通しての資金提供を行っている。サーラコーポレーション

ンは日本ベンチャーキャピタル株式会社の株主でもあり、傘下の投資組合に出資をしている。

- お金の提供だけでなく投資組合が投資した企業との協業、サービスや商品の積極的な利用を合わせて行っている。事案2に記載したカオナビ社は、投資組合が今でも上位の株主として残っており、事業自体の支援にも継続的に努めている。
- ローンチしたサービスの利用では直接的にも間接的にも出資はせず、スタートアップ企業の商品やサービスを積極的に利用することで、スタートアップ企業が最も苦しい死の谷を乗り越えてくるプロセスを支援している。サーラグループで利用することで、この地域での営業のしやすさ、信用につながるといった良い評価もいただいている。
- 豊橋駅前二丁目の再開発事業については、当グループの単独の事業ではないが、権利変換でいただいたフロアで、主に「食」や「農」といった分野のスタートアップを支援すべく様々な企画をしている。具体的には「食」と「農」のシリコンバレーを目指す東三河フードバレープロジェクトを立ち上げながら、その一部を具現化した具体的なコンテンツを計画中である。
- 例えば1階には東三河の素材を使った「食」を楽しめる、あるいは新しい取り組みの発表の場となるフードホールやマーケットを設置、5階には大学や地元企業のプレイヤーの皆さんに集まっていただき、イノベーション創出の機会となりえるラボなどを考えている。4階の一部でスタートアップ企業向けの小規模オフィスも考えており、来年夏以降の竣工に向けて鋭意検討している。

武蔵精密工業株式会社 伊作氏

- 弊社ではイノベーションに向けた取り組みをいくつか行っており、例えば本体で研究開発をスタートアップと共同で進めているものがいくつかある。例えばシリコンバレー2社、テルアビブ3社にも出資して共同開発を進めながら、自動車を中心とした技術にスタートアップの新しいアイデアを掛け合わせて次の事業にしていこうとしている。
- みんなが集まってイノベーションを起こしていくエコシステムを作れないかということで、豊橋駅前に CLUE というイノベーションラボを作った。目的は、東三河から独創的な技術や斬新な事業モデルでイノベーションを起こし、結果的に地域社会の発展に貢献することであり、新しい事業を起こしていきながら新しい課題を解決していくことが狙いである。
- CLUE に集まる人は東三河を中心とした地元の人であるが、1年半で名古屋方面からもかなり人が集まるようになった。機能は、アクセラレーターよりインキュベーターに近く、0→1のところをサポートしていく。地元の代表者の話を聞いたり、シリコンバレーやイスラエルのスタートアップの講演を行い、東三河にいながら東

京や海外の新しいアクティビティを繋げていく拠点にしようとしている。

- CLUE が与える価値としては、普段の仕事の環境から離れた新しい環境「place」を与え、そこで違う環境の人が集まることで化学反応を起こしてもらおうということであるが、それだけでは新規事業に繋がらないため、教育を提供する。デザインのワークショップや、インキュベーターを創出しようとする「東三河イノベーターズゲート」というプログラムを提供している。
- コロナの影響で人を集めて何かをやるのが難しくなってきたので、いかにデジタル、リモートをコンテンツに入れていくかであり、色々な地域、海外とも繋がるので、コンテンツとして持って、繋げていこうと思っている。
- ステージを作っており、必ずピッチをすることも特徴である。投資家や地域から出資をうけることができる機会を提供しようとしている。

イノチオホールディングス株式会社 石黒氏

- 農林水産省が世界で戦うために次世代の園芸拠点が必要ということで、全国10か所拠点が作られる中、愛知県の拠点施設の設計、施工、その後の農場運営の事業主体となっている。下水処理場の放流水を使い、新しい農業のあり方を提供しようとしている。研修生を受け入れ、新たな担い手の育成の役割もある。
- 農工連携で労働力不足や生産性の向上のためにいかにロボットを活用していくかということで、大学、生産者と一緒に省力化を進めている。
- スマート農業の技術開発のプロジェクトを豊川で行っており、コンソーシアムに関連会社のイノチオアグリが参画している。
- 昨年からは農業スタートアップ企業と連携して研究開発を共同で行っている。AI を使って農産物の販売支援。これ以外にも、年に数社、出資をしている。

株式会社サイエンス・クリエイト 堀内氏

- 豊橋技術科学大学を始めとする大学の持つ技術や知見、産業界、地域、自治体といった産学官が連携して東三河の産業の活性化と新産業の創出、それを担う人材育成の支援を行っている。5年前にメーカーズラボ、3年前にスタートアップガレージ、アグリフードラボを整備し、3つの機能を豊橋イノベーションガーデンとして一体的に運営している。
- スタートアップガレージでは、常時様々な分野の相談員を配置し、起業の様々な相談に対応している。また、会員は無料でコワーキングスペースを利用でき、1,077人の会員登録があり、昨年は約7,000人の利用があった。昨年度は、企業の相談及び専門家の出張相談が226件、起業や新規事業の立ち上げは20件であった。
- メーカーズラボは約100平米あり、モノづくりの拠点として様々な最新デジタル機器をそろえている。豊橋技科大の学生が常駐し、3Dプリンタやデジタルミシンを

はじめ事業者が試作品を製作し、子供たちはロボットづくり等を行い、モノづくりの裾野を広げ、幅広く利用されている。昨年は4,000人の利用者があり、189回の各種ワークショップの開催、7件の試作品の製作支援があった。また、新規事業創出を目的としたハッカソンも毎年開催している。

- この施設はスタートアップの間口を広げ、入り口となる市内で最もハードルの低い創業支援窓口である。今後は、多様な専門性を持つスタッフの充実、オンラインの相談体制を整え、東三河の特色を生かしながら起業や新規事業創出までのサポートを行っていききたい。

豊橋技術科学大学 山本氏

- 豊橋技術科学大学のベンチャー支援は、大学の持っている研究シーズで貢献できればと思っている。これまでの取り組みとしては、愛知県と覚書を締結している。
- 大学発ベンチャーは、大学が支援するということでベンチャーの中でも重要な位置を占めている。大学の研究成果を事業化することを主たる目的とした企業で、豊橋技科大のベンチャーとしては、これまで2件の株式会社を認定している。
- 「株式会社アロマビットシリコンセンサテクノロジー」は、イオンイメージセンサーの社会実装を目指している。
- 「PLANT DATE 株式会社」は、植物の声を聴く、栽培管理のための植物診断を行っている。単なる植物工場による栽培ではなく、計測技術のロボットを使って、データを栽培管理に活かしている。農業と AI、IT の関連付けの実装を目指しているものである。
- 関連事業として、東海5大学を中心に Tongali プロジェクトを発足させた。
- 農業と工業を繋ぎ、そこにロボティクスや AI、IT などを絡めていくことでスタートアップに貢献できるのではと考えている。

東三河広域連合 野尻氏

- 豊橋市のスタートアップ支援は、基本的にサイエンス・クリエイトと連携しての事業である。
- オープンデータビジネス創出事業は、豊橋市を中心として、東三河全体で取り組みを広げており、単なるデータの提供ではなく、いかに活用をしてもらうかが課題である。モデル事業の実証などを行っており、今年度は路線バスの運行システム、運行状況のオープンデータ化を行う予定である。
- イノベーションガーデンについては、サイエンス・クリエイト堀内さんの説明のとおりであり、豊橋市としても支援を行っている。
- 新規ビジネス創出事業補助金についてはビジネスプランコンテストの支援である。潜在的な創業者の掘り起こしであり、スタートアップの入口となり得ると考えてい

る。応募者数は令和元年度 120 件、前年度は 60 件、前々年度 47 件であり、年々増加している。

- 衛星データ利活用促進支援の事業は、アイデア創出から事業化まで地域で支援をしていくものである。テーマ案は、耕作放棄地の検出システムの開発や実証実験を予定している。
- 官民一体型新ビジネス創出事業は、市が課題を抽出し、企業、スタートアップが解決策を提案、その提案を選考したうえで、関係部署と連携して実証実験を行う予定である。
- 従来の創業支援については、各市とも創業支援の融資や一定の資金の補助は整えている。豊橋という創業プラットフォーム、各市でいう創業支援ネットワークは、8市町村すべてで取り組んでいる。
- 産業競争力強化法に基づいた、計画に基づき情報のワンストップサービスを行っている。ただ、8市町村すべてが連携しているわけではなく、単体で動いている。奥三河と新城は一体で動いている。
- 蒲郡市では、コワーキングスペースを商工会議所内に開設している。創業したい方、創業間もない方へオフィスの提供、ワークショップの開催を行っている。

<論点等に対する意見（資料3）>

武蔵精密工業株式会社 伊作氏

- 単独でスタートアップが0から何かをするというのは難しい。地元の有力な農業や自動車産業などのバックボーンがあるので、うまくサポートして共同で取り組み、スタートアップと地元の企業が融合して新しいことをやっていくという進め方もある。
- CLUE というイノベーションラボを作ったのは、我々の持っている強みとスタートアップの斬新なアイデアを掛け合わせて新しいことができないか、というのが始まり。サポーターであり、出資という観点もあり、進めている。
- 農業が非常に重要な地域であると認識している。我々も農業のスタートアップを持っていて、色々な企業に手伝ってもらいながら新しい取組を行っている。地元の強みは何かを認識して新しいものを掛け合わせていくことが、東三河らしきにつながっていくと思う。
- スタートアップをやりたいと考えたときに、お金や技術のサポートを受けられる機能をエコシステムの中に持つ必要がある。
- 成功者が出て地元に戻り、この地域で次の人に投資してくれるようになれば、スタートアップを創出し続けるエコシステムになっていくと思う。その最初のひと振りを、このメンバーで受け持つことが一番だと思う。

イノチオホールディングス株式会社 石黒氏

- ないものねだりをしてもしようがない。この地域の強みと呼ばれているものが何か、その本質のところを共有する必要がある。スタートアップに必要とされているのは従来型の産業ではなく、いくつかの産業をどう組み合わせしていくかということや、新たな価値を創造していくということになると思う。
- 愛知県は、モノづくりの拠点として日本一の地域であるし、農業の面でも、例えば園芸部門など見ると日本一の作物もたくさんある。この二つの産業は縦割りで、今まで協力体制が必要だと言われながらできていなかった。モノづくりの生産管理のシステムを生産性が低い農業に取り込むことで、農業の生産性を改善することができる。モノづくりと農業の融合の場づくりをどう進めていくかが重要な課題ではないかと思う。

豊橋技術科学大学 山本氏

- 大学における研究シーズや知的財産を、いかに地域の新しい産業分野の創生に役立てられるかを考えている。東三河地域には、膨大な資源が眠っていると思う。シリコンバレーや上海の大学など、国外とのつながりによってより幅広くなっていく可能性が非常にあると思う。

株式会社サイエンス・クリエイト 堀内氏

- 東三河地域は堅実で、起業を目指す人は多くはない。それは、身近に成功体験がないということもある。新型コロナの影響で起業を目指す方は財政的にも厳しくなっていくと思うが、それは新しい起業のチャンスでもある。
- その中で地域にできるサテライトには、この地域の企業とスタートアップが結びついて成長し、地域産業の活性化や地域の発展に貢献していき、それがまた新しいスタートアップを生み出すような、そういったことを期待している。

中部ガス不動産株式会社（サーラグループ） 赤間氏

- 短期的には、当地の強い産業をうまく生かしていく取組を、早く実証実験ベースに乗せていくことがポイントであると思う。
- 長期的には、中学生の時から起業家を夢見るキャリア開発を行うなど、起業が当たり前の文化を作っていくことが重要だと考える。グローバルな連携で呼び込むことは大事だが、最後はインナーサークルで情報がコントロールされることもあると思うので、長期的にはキャリア開発や教育、文化の醸成にも取り組むべきだと思う。

東三河広域連合 野尻氏

- 東三河地域では、農業は1つの可能性だと感じた。農業とIT産業、モノづくりと

の融合がエコシステムの形成に貢献していくと思う。

- サイエンス・クリエイトや武蔵精密のイノベーションラボなど、スタートアップ支援の機能がある程度、徐々にできている。新しいサテライトの機能と既存の取組をどう結び付け、相乗効果を生み出せるかを考えていかなければならない。そのためには、役割分担が必要で、各支援機関の調整機能をどこかが持つ必要があると思う。例えば、新しいサテライトに東三河全体のスタートアップ支援を調整する機能を持たせることも考えられると思う。

東三河広域経済連合会 神野氏（リーダー）

- 東海広域5大学のベンチャーファンドの立ち上げに関わった経験があるが、愛知の大学出身者のベンチャーはたくさんあるものの、残念ながら愛知で起業している人はほとんどいない。東京や海外で起業している。しかし、ふるさとに対する思いは強く、スタートアップで成功したら愛知に拠点をつくりたいと考えている。では、なぜ出身大学の地で起業しないかという、スタートアップがしにくいからである。逆に言うと、スタートアップがしやすい、サポートを受けられる環境をつくれば、世界中から人は集まってくる。
- 農業の技術やアイデアを持っている人達に、東三河に行けば多様な面での支援が受けられ、スタートアップできると認識されれば、世界中から人が来るのではないかと思う。ステーションA iを含めて、そのような環境を作ることができればと思う。
- 豊橋技科大は全国の高専出身者が集まっており、最近ではアジアから多くの留学生も来ている。これらの技科大内でのエコシステムをどのように生かすかも重要だと思う。
- テーマとしては、1つは農業であり、世界に冠たる愛知のモノづくりのベースとなっている技術もある。自動車の部品や素材の基本的な部分は、東三河の中堅企業が担っている。これらと技科大の先生たちとのタイアップにより、新しい素材の活用もできると思う。東三河地域全体での可能性は非常にあると考えている。

愛知県 松井副知事（サブリーダー）

- 地域におけるスタートアップ・エコシステムの形成については、地元企業、大学、市町村の皆様が主体的に関与していただき、地域の自主的な関係機関のネットワークを構築することが重要と考えている。
- 本日の皆様のお話を伺い、東三河地域では、既に様々なスタートアップ支援に関する先進的な取組が行われていることを改めて実感した。こうした取組を有機的に結びつけることができれば、この地域のさらなる発展の起爆剤となり得ると、大変心強く感じている。
- また、本日は、論点等をはじめ様々な御意見をいただき、検討すべき事項を概ね浮

かび上がらせることができたのではないかと思う。今後は、ワーキンググループにおいて、方向性を詰めて参りたい。

- 昨年度策定した東三河振興ビジョンの主要プロジェクト推進プラン「地域連携による地方創生事業のさらなる推進」でも、プランを推進するための6つの重点事業の一つとして、「東三河スタートアップの推進」を設定した。
- 「地域が一体となって自立した東三河をつくる」という東三河振興ビジョンの基本理念を踏まえつつ、この地域ならではのスタートアップ・エコシステムの在り方、また、スタートアップ支援拠点の在り方について、方向性を固めていければと思う。
- 今後も、神野リーダーの下、皆様方のお力添えをいただきながら、東三河地域のさらなる発展に向け、地域の総力を挙げて検討を進めていきたいと思うので、引き続き、御協力をよろしくお願ひしたい。